

⑥3 地域高規格道路 みやぎ県北高速幹線道路第Ⅱ期（中田工区）

受賞機関 宮城県 東部土木事務所
登米地域事務所

キーワード 復興支援道路、設計の工夫、コスト縮減

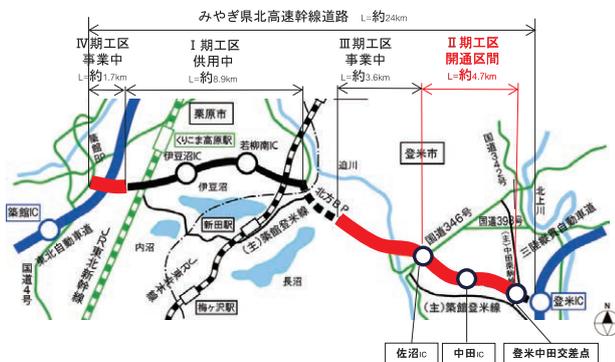
全建賞審査委員会の評価ポイント

みやぎ県北高速幹線道路は、東北縦貫道と三陸縦貫道を連絡する地域高規格道路であり、このうち三陸縦貫道の登米ICと登米市街地を結ぶ第Ⅱ期（中田工区）延長約4.7kmを整備した事業。復興に関連する三陸沿岸道路事業からの流用土を受け入れることや、道路規格やIC形式、橋梁構造の見直し等柔軟に対応し、整備効果の発現とコスト縮減を図った点が評価された。

1. はじめに

みやぎ県北高速幹線道路は、宮城県北部において東北縦貫自動車道と三陸縦貫自動車道を結ぶ延長約24kmの地域高規格道路であり、東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとして位置づけられている。

県は、東日本大震災の教訓から「防災道路ネットワーク」として、あらゆる災害に備えた複数ルート・代替機能を持つ道路網の整備に取り組んでおり、その一翼を担うみやぎ県北高速幹線道路については、復興支援道路として加速的に整備を進めているところである。



みやぎ県北高速幹線道路 整備計画図

2. 事業の概要

第Ⅱ期（中田工区）（延長約4.7km）は、みやぎ県北高速幹線道路の一部区間であり、平成23年11月に事業化され、復興支援道路として早期完成を期待されていた。

その実現のために、国や市等関係機関との情報共有と事業調整により、全体盛土量の約35%を三陸沿岸自動車道からの流用土とすることで、コスト縮減と環境負荷の低減を図るとともに、「地域高規格道路の構造要件」の見直しを踏まえ、道路規格の変更やインターチェンジ及び橋梁形式の見直しなどに柔軟に対応することにより、整備効果の早期発現とコスト縮減を図った。

これにより、本格的な工事着工から5年という極めて短い期間で事業完成を果たし、平成30年12月25日に開通した。

3. 事業の成果

みやぎ県北高速幹線道路第Ⅱ期（中田工区）の整備により、以下の事業効果が期待される。

- 1) 登米市中心部における通過交通の分散・減少による、渋滞緩和と交通事故の軽減。
- 2) 東北縦貫自動車道と三陸縦貫自動車道へのアクセス向上及び定時性の確保。
- 3) 第三次救急医療施設（石巻赤十字病院）へのアクセス向上。
- 4) 有事における内陸部と沿岸部の広域的な連携を担う緊急輸送路としての機能向上。



開通後の様子（中田 IC 付近）

4. おわりに

東日本大震災からの1日も早い復興のため、みやぎ県北高速幹線道路の早期全線開通に向け、引き続き事業を推進していく。

また、本事業の建設にあたり、用地買収にご協力いただいた関係地権者の皆様方、工事関係者の皆様方に、この場をお借りして心から感謝申し上げたい。

賛助会員 (株)猪又組、奥田建設(株)、木戸建設(株)、(株)大伸建設、日建工業(株)、ライブディック(株)